

★ 果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ等) に注意！！ ★

予察灯・フェロモントラップへの誘殺が増えています。

ナシ、カキ、カンキツ等では今後の発生に注意してください。



チャバネ
アオカメムシ

クサギ
カメムシ

ツヤアオ
カメムシ

発生状況

- (1) 7月中旬に行った巡回調査では、ナシ及びカキで被害果の発生を認めていない（平年並）。
- (2) チャバネアオカメムシの予察灯(BL)への誘殺数（6月第4半旬～7月第3半旬の合計）は、京田辺市で例年比やや多く（+）、亀岡市で平年並、京丹後市で例年並（図1）。
- (3) チャバネアオカメムシのフェロモントラップへの誘殺数（同上）は、京田辺市、亀岡市及び京丹後市で平年比やや多い（+）（図2）。
- (4) クサギカメムシの予察灯(BL)への誘殺数（同上）は、京田辺市で例年並、亀岡市で平年並、京丹後市で例年比やや多い（+）（図3）。
- (5) ツヤアオカメムシの予察灯(BL)への誘殺数（同上）は、京田辺市及び京丹後市で例年並、亀岡市で平年並（図4）。
- (6) 大阪管区气象台（7月16日発表）の近畿地方1か月予報では、向こう1か月の気温は平年より高いと予想されており、今後も果樹カメムシ類の増殖・活動に適した気象条件が続くと見込まれる。

注) 平年比――原則として過去10か年の平均値との比較。

データが10年に満たない場合（5～9年）は例年比とする。

防除上の注意事項

- (1) 山林等の隣接園では、特に注意が必要です。カメムシ類は局地的に発生し、集中的な被害をもたらすことがあるので、国内外の成虫発生状況をこまめに観察し、発生を認めた場合は速やかに防除してください。なお、防除は地域で一斉に実施することで、より高い効果が期待できます。
- (2) カメムシ類は、夜温が高く風の弱い日の日没頃に多く飛来します。
- (3) 合成ピレスロイド剤を連用すると、ハダニ類やカイガラムシ類が多発する恐れがあるので避けてください。
- (4) 防除薬剤を使用する際は、収穫前日数等の使用基準を厳守してください。

農薬の使用に当たっては、ラベルおよび最新の使用方法や注意事項を確認してください。また、各薬剤の使用回数を守るとともに、同一成分を含む農薬の総使用回数についても注意してください。さらに、効果の高い殺虫剤でも連用すると薬効低下のおそれがあることから、作用機構（IRACコード）の異なる殺虫剤を組み合わせ、ローテーション散布に努めてください。

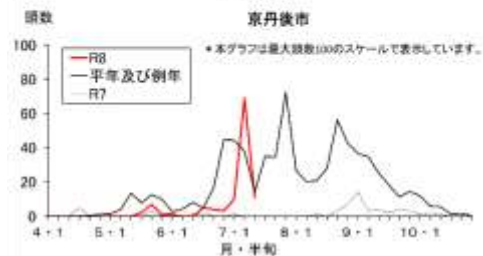
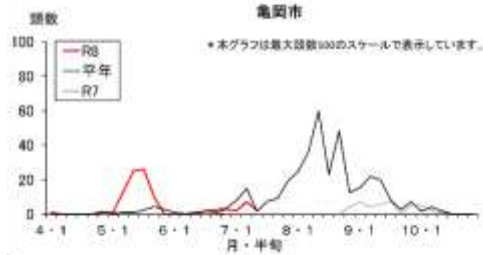
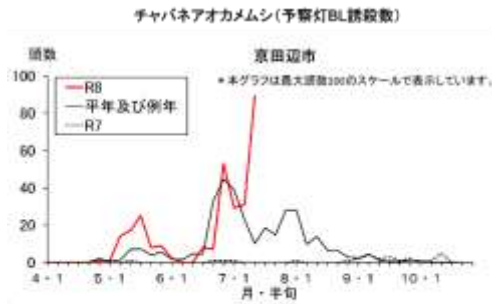


図1 チャバネアオカメムシの
予察灯 (BL) への誘殺状況

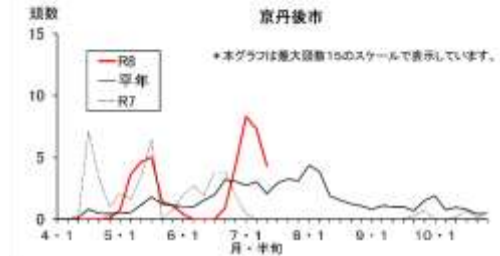
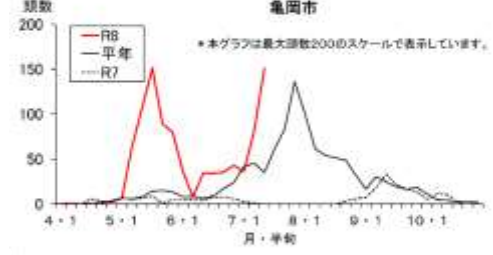
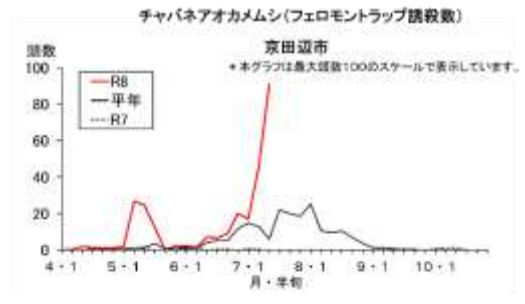


図2 チャバネアオカメムシの
フェロモントラップへの誘殺状況

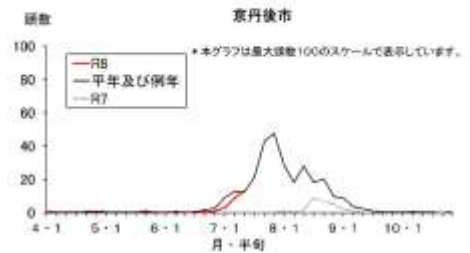
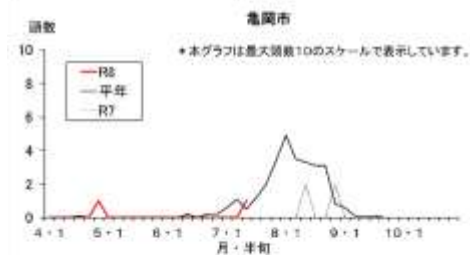
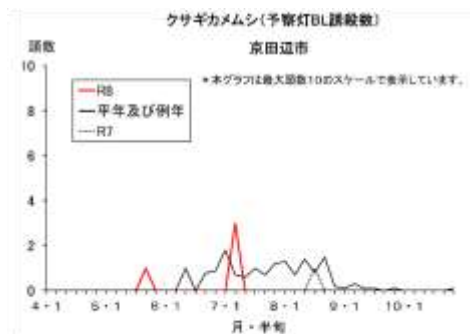


図3 クサギカメムシの
予察灯 (BL) への誘殺状況

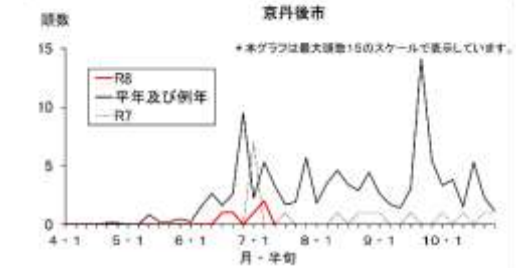
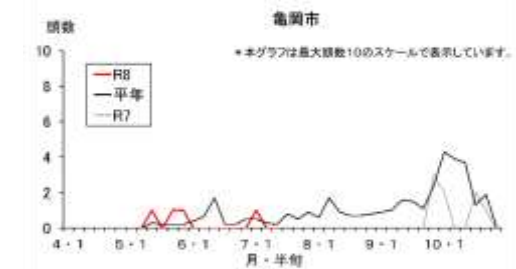
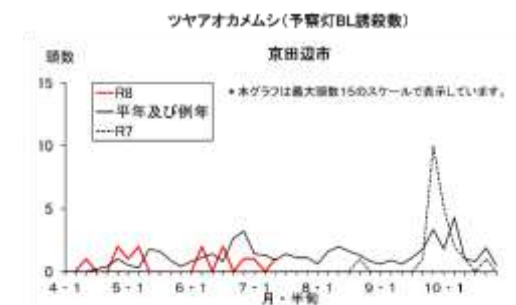


図4 ツヤアオカメムシの
予察灯 (BL) への誘殺状況